

ヨツボシカミキリ *Stenygrium quadrinotatum* Bates

【選定理由】

1970年代までは平地から低山地にかけて普通であったが、1980年代になって減少傾向が知られるようになり、現在では発見が極めて困難になっている。

【形態】

体長 8.5~13.5mm。黄褐色~赤褐色のやや細型のカミキリムシで、上翅中央に4つの顕著な明色紋がある。触角はオスでも体長を僅かに越える程度。



豊田市, 1998年, 蟹江昇 採集,
長谷川道明蔵

【分布の概要】

【県内の分布】

ほぼ全県内から記録があるが、1990年以降の記録は豊田市(旧旭町)、名古屋市のみ。

【国内の分布】

沖縄県を除く日本のほぼ全土に分布する。

【世界の分布】

台湾、朝鮮半島からインドシナまで分布する。

【生息地の環境/生態的特性】

平地から低山地に生息する。成虫は6~7月に出現し、クリの花に好んで集まる他、灯火にもよく飛来する。

【現在の生息状況/減少の要因】

1960年代には名古屋市内でも珍しくなかったと言われるが、1990年代以降、生息情報ももたらされているのは、豊田市(旧旭町)で1997年と1998年にそれぞれ1個体、名古屋市守山区で2013年に8個体(河路, 2014)にすぎない。本種の減少の要因としては、薪が燃料として需要がなくなったため、本種の重要な繁殖の場であった薪置き場が無くなったこと、また、それと平行して薪の生産現場であった雑木林の管理放棄による荒廃や宅地造成などによる消失があげられる。なお、本種は古い時代に里山に定着した外来種ではないかとの疑いも持たれている。

【保全上の留意点】

明確な減少の要因が確定できないため、保全上の留意点をあげるのは困難であるが、里山の雑木林の荒廃を防ぐ手だてが必要であろう。現在生息が確認されている豊田市、名古屋市周辺での詳細な実態調査を進める必要がある。

【引用文献】

河路掛吾, 2014. 名古屋市東谷山で採集したカミキリ. 佳香蝶, 66 (258): 45-46.

【関連文献】

蟹江昇ほか, 2001. 旭町の甲虫目. 旭町の昆虫: 89-173. (財)旭高原自然活用村協会.
湯沢宣久・蟹江昇・河路掛吾・竹内克豊, 1990. 愛知県のカミキリムシ科. 愛知県の昆虫, (上): 389-433. 愛知県,
(長谷川道明・蟹江昇・戸田尚希)

県内分布図

